

2020 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 実践ケア賞

特定非営利活動法人 認知症ケア研究所

【設立年月日】2004年9月

【授賞理由】

本団体は、あらゆる世代や立場の人が相互理解のもとに暮らせる地域を作り出すことは社会全体に課せられた責務です。貴研究所が理想的な認知症ケアのあり方として世代間交流を実践されていることはソーシャルキャピタル拡充の視座からも大変に有意義な社会貢献といえます。

これらの取り組みは、認知症ケア賞（実践ケア賞）の受賞に相応しいといえます。

【団体概要】

認知症の人及び高齢者のケアに関する幅広い教育普及活動を進め、高齢者と子どもの世代間交流を深めると共に、不特定多数の市民及び団体を対象に助言・支援・教育を行い認知症高齢者及び高齢者に対する援助の理想的な在り方を保健及び福祉、児童福祉の増進に貢献することを目的に、平成16年9月茨城県内に特定非営利活動法人認知症ケア研究所を立ち上げました。

【事業活動】

平成16年に高齢者ケアの啓発活動を開始し、平成19年に茨城県水戸市に通所介護事業としてデイサービスセンターお多福を開設。平成21年～令和2年まで同敷地内に保育事業としてお多福キッズガーデンを開設し、以来、世代間交流を毎日行い10年目を迎えます。現在は上記以外にもデイサービスセンターを3ヶ所開設し、認知症高齢者と高齢者が安心して一緒に過ごせる施設の運営を継続しています。また、月1回、お達者倶楽部（デイサービス利用者や園児とその家族、地域が関わるイベント）と家族会（デイサービス利用者とその家族、地域の認知症の人を介護する家族や民生委員等が対象）を交互に開催しています。

【活動内容等】

活動目的：

認知症高齢者を中心とした世代間交流を通し、地域の住民や子供達、その親世代に認知症高齢者と自然に係われる空間を作り、認知症の人と地域の人が同じ空間で同じ時間を一緒に楽しみながら過ごせると理解してもらうことを1つの活動目的としている。また、認知症高齢者のケアに実践に携わっているスタッフが、看護職や介護職に対する啓発活動として、1年に16～20回ほど現実的な事例を交えて伝える様々な研修会を毎年、開催している。また当研究所の看護・介護スタッフで立ち上げた認知症高齢者の姿とケアの方法を、寸劇を通してわかりやすく伝える『劇団いくり』の取り組みは、水戸

市を中心に茨城県内はもとより、他県からも依頼があり好評である。また、水戸市の「市内中学生全員が卒業するまでに認知症サポーターになる」という目標のもと、市の委託事業として、毎年、市内中学校の授業時間に劇団いきりが出向き、認知症サポーター養成講座を行っている。

活動の特徴：

認知症高齢者のケアを、介護職や看護職をはじめ地域住民や学生に理解してもらう為、リアリティさに重点を置きながら、当研究所のスタッフである現役看護師や介護士が中心になって研修活動を行っている。

その他、当法人が運営する通所介護事業所では、同敷地内に併設された保育所の園児と認知症高齢者が関われる時間を毎日作っている。また、園児だけではなく、園児の親世代も一緒に高齢者と関わる機会を作り、継続しているところが最大の特徴である。

活動の効果・影響：

認知症高齢者と子供が毎日関わることにより、子どもと認知症高齢者の交流だけではなく、子どもの親世代と認知症高齢者の関わる時間が自然と作られた。核家族化が進む現在 80～90 歳の高齢者と一緒に生活する空間が少ない幼児が、ショッピングセンターで高齢者に声をかけられ、走って逃げてしまっていた子ども、関わりを通して認知症高齢者と馴染みのある人として認識できるようになった事例もあった。また認知症高齢者は、子どもがいる空間を安全と認識できる様子があり、子ども達がないデイサービスの空間では、帰宅願望などの **BPSD** が見られた認知症高齢者も子供たちが施設に来ると自然と笑顔になり、子ども達との関わりを楽しみ、一時的に不安要素が軽減しているように感じる。

今後の活動予定：

今後は、地域との連携、子どもと高齢者、住み慣れた地域への取りまた認知症高齢者のケアについての啓発活動を水戸市を中心に県内外で継続して行っていく予定です。